

慶應義塾大学ビジネス・スクール

航空会社のイールド・マネジメント

5

「日航 スペース 2 割拡大 シンガポール航空 A380 に独立ベッド」

航空各社が国際線の最上級席を相次いで個室仕様になっている。乗客一人ひとりにゆとりとしたスペースを確保し、通路や隣席との間に間仕切りを設けることでくつろげる空間を確保。寝具も工夫し、ぐっすりと眠れるようにすることにこだわっている。(中略)

10

「JAL スイート」と呼ぶ新しいファーストクラスは機内の前方に八席だけ配置。クリーム色の仕切り壁(高さ百二十四センチ)が座席の周囲をぐるりと囲むようにした。(中略)

座席を倒して水平な状態にした時の大きさは縦百九十九センチ、幅八十四センチとシングルベッド並み。乗客にはこの座席の上に置く専用のマットレスの上で寝てもらおう。マットレスは米航空宇宙局(NASA)の素材技術を受け継ぎ、高機能寝具の製造で知られる米テンプル社と共同開発した。(以下、省略)

15

出典：『日経産業新聞』(2008年8月12日、5ページ記事より抜粋)

近年、航空会社間の新シート導入や新サービスの提供などを通じた競争が激しさを増している。

20

航空会社の主力商品である航空券は、特定の日の特定の便の特定の座席が出発までに購入されなければ、収入をもたらすことなく消滅してしまう、いわゆる“陳腐化商品”である。低料金を支払った乗客で満席の便も、正規料金を支払った乗客が少数搭乗している便も、どちらも航空会社にとっては望ましい利用状況ではない。望ましい状況は、その中間にあると考えられる。

25

顧客は、正規料金航空券の乗客、インターネットで正規割引航空券を買った乗客、旅行会社

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授 林 高樹がクラス討議のために作成した。本ケースの記述は、経営管理の巧拙を例示するためのものではない。また、数値データはケース著者が仮想的に作成したものであり、必ずしも現実の数字を反映するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 林 高樹 (2008年6月作成)